

## 1. 研究課題名：

釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる  
戦略と戦術



## 2. 研究代表者氏名及び所属：

吉田 剛司（酪農学園大学農食環境学群）

## 3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

## 4. 研究の趣旨・概要

国内各地で超高密度化（Hyper Abundant）したニホンジカによる生物多様性への影響が懸念され、個体数管理の取り組みが進んでいる。しかし、シカは希少種保全の目的で設置された鳥獣保護区や個体数管理が困難な生態系に集中し、釧路湿原でも年間を通じて国立公園内外にシカが超高密度に分布している。湿原でのシカの超高密度化は植生のみならず生態系物質循環への影響が予測され、適切な管理下で湿地の機能、資源、価値を持続的に確保する必要がある。しかし、湿原でのシカの捕獲は難しく、タンチョウ等の希少種に影響を与えない捕獲のための時空間的な要因解明も課題である。さらに公園利用者との調整や地域協働によるシカ管理も緊急を有す。

本研究では『時空間利用と植生・土壌環境への影響評価』として、Iridium 通信型 GPS 発信機によりシカの季節移動と日周行動を地図化し、シカ - 植生 - 土壌の物質循環に対する生態系影響をシカ排除柵によって明確にする。『生物多様性保全を可能とする広域個体群管理』では、広域のシカ分布・密度構造と植生への影響把握手法を確立し、北海道と周辺市町村による希少種保全に配慮したシカ管理について提案する。『地域住民・市町村での情報共有および協働による湿原保全と個体数管理手法の検討』では、社会科学の観点からワークショップの開催により地域協働での湿原の自然再生を目指す。

これらを総括して、釧路湿原において超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術を提案する。

## 5. 研究項目及び実施体制

### ① 時空間利用と植生・土壌環境への影響評価

（酪農学園大学）

### ② 生物多様性保全を可能とする広域個体群管理

（北海道立総合研究機構環境科学研究センター）

### ③ 地域住民・市町村での情報共有及び協働による湿原保全と個体数管理手法の検討

（釧路公立大学）

6. 研究のイメージ

釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術  
～ 研究の目標・進めかた ～

**What** 釧路湿原国立公園内の超高密度 (Hyper Abundant) のエゾシカ

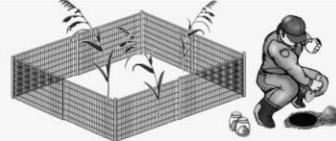


超高密度のシカ管理を成功に導くための 5 W 1 H の把握

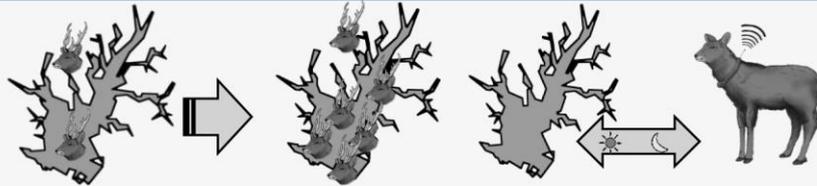
サブテーマ 1 「時空間利用と植生・土壌環境への影響評価」

**Why** 植生と土壌生態系への影響の解明

シカ管理の科学的根拠の集約



**When**



時間スケールでの密度変化  
シカの季節移動と日周行動の把握

捕獲が可能な時空間の解明

サブテーマ2 「生物多様性保全を可能とする広域個体群管理」

広域スケールでシカ捕獲が可能な場所の抽出

**Where**



タンチョウなど希少種の生息分布

シカの分布と広域管理計画

サブテーマ3 「地域住民・市町村での情報共有および協働による  
湿原保全と個体数管理手法の検討」

**Who** 科学的根拠に基づく  
市町村と地域住民との情報交換  
積極的な市民参加



【湿原生態系保全のための広域管理における  
シカ管理の戦略と戦術】の立案

**How**

生態系維持回復事業の成功